

私たちはボランティア精神のもと
「市民後見人」として、地域社会に貢献することを目指します。

会報/市民後見人の会 No. 104

2016年7月20日発行 通巻No.114号

創刊2007年2月27日

発行/特定非営利活動法人 市民後見人の会

〒140-0014 東京都品川区大井 1-15-1 品川成年後見センター分室3階

TEL : 080-3912-3259 (通話専用 月～金曜日の10時～16時の間対応します。)

FAX : 03-6303-8265 (FAX専用 受信は24時間対応できます。)

MAIL : npokouken@gmail.com HP : <http://www.shiminkoukenninnokai.jp>

◆受任数累計 33件◆

東京家庭裁判所は6月21日、品川区長申立による74歳男性(申立時には品川区在住、現在は群馬県藤岡市の施設に入所中)の後見人を本会に、後見監督人を同区社会福祉協議会にする審判を行いました。

正・副担当会員が直ぐに着手し、現在初期活動を始めています。ご本人が遠方にあるということで活動に困難を感じますが、このような時こそNPOとしてまとまってサポートすることが望まれます。

◆新体制発足◆

前号でもご案内しましたが5月29日、本会の平成28年度定期通常総会が開かれ、第5号議案として任期満了に伴う役員改選が満場一致で次のように承認されました。

理事

古賀 忠壹 (再任)、朝倉 鈴子 (再任)、安齋 実 (再任)、大岡 朋子 (再任)
國枝 園子 (再任)、澤谷 義則 (再任)、杉谷 徹夫 (再任)、中越 勝 (再任)
高橋 宣子 (新任)、高原 三平 (新任)

監事

青木 誠 (新任)、小松 統 (新任)



本会の理念を実現すべく、新体制のもとスタートの舵をきったところです。

◆6月度理事会報告◆

1. 開催日時 平成28年6月20日(月)17時00分～20時00分
2. 開催場所 本会事務所
3. 出席理事 古賀忠壹理事長、高原三平事務局長、朝倉鈴子、安齋実、大岡朋子、國枝園子、澤谷義則、杉谷徹夫、高橋宣子、中越勝各理事
4. オブザーバー 青木誠、小松統各監事
5. 議事録

<審議事項>

- ① 本会組織及びその役割について決議された。
- ② 本会事務所当番について決議された。
概要：月～金曜日の10時～16時、当番を置く。
- ③ 被後見人等番号33号の担当者について、正・副担当者を決めた。

<報告事項>

- ① 平成28年度支援員候補者推薦について
- ② 社協品川成年後見センターとの支援員についての確認について
- ③ 「ITクラウドサービス」について
- ④ NPO法人「協働まちづくり」よりの講演依頼について

<今後の予定>

- ・7月23日(土)13時 見学会 ケアホームこうほうえん&養玉院(大井の大仏)を予定

◆キーワード◆

新オレンジプラン

2015年1月、政府は認知症対策を新たな国家戦略と位置づけ「新オレンジプラン」(認知症施策推進総合戦略)を発表した。基本的な考え方は「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す」というもの。このプランは次の7つの柱からなりたっている。①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進、②認知症の容体に応じた適時・適切な医療・介護等の提供、③若年性認知症施策の強化、④認知症の人の介護者への支援、⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進、⑥認知症の予防法、診断法、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進⑦認知症の人やその家族の視点の重視。(政府公表資料より作成)

◆人生の大先輩「本田正男さん」◆

NPO 法人市民後見人の会 理事・安齋 実

本田さんは、同じマンションの住民で、ある日、「これからは、地域の時代だ。地域の語り部を養成したいので参加して」と声をかけられたのが、2001年。そして30時間の講習を受けた26人で「かながわ語り部の会」が発足した。本田さんはWAC（公益社団法人長寿社会文化協会）の鷹野さんと共に顧問を務めていたが、末期癌を発見され、自ら余命4か月余りであることを知った。語り部の会



では「成年後見制度」の普及活動に取り組もうとした矢先、会員は7人に減少、私も品川に転居したが、高連協（高齢社会NGO連携協議会）の養成講座テキストとビデオを購入し学習を始めた。余命わずかの本田さんが「自分にも見せろ」と言うのでテキストを渡したが、2週間後に死去。奥様から預かった遺稿は「保土ヶ谷・健康と生きがいを考える会」で「成年後見制度」を説明する内容で、ヨレヨレの文字で絶筆していました。彼の葬儀委員長を務め、翌日の保土ヶ谷コミュニティセンターでの講演会を代行しました。これが私の「成年後



協働まちづくり（八潮 2015・12・7）で講演中の筆者

見制度」講演会の第1号でした。13年前の当時と違い、制度に対する理解も誤解も進んでいますが、会員の皆様のご協力を得て「成年後見制度」の普及活動を前進させたいと思います。

毎週木曜日には事務所にいます。皆様、ぜひお越しください。お待ち致します。

最近、印象に残った新聞記事があります。そのまま引用します。

「横浜市で介護スタッフになった竹島静枝さん（88歳）に強い感銘を受けた。米寿にして『介護される側』ではなく『介護する側』に回り、お年寄りのために働いている。竹島さんは昨年末、資格養成校に通い、介護職員初任者研修修了の資格を取った。周囲の勧めで、今年3月からデイサービス施設で働き始めた。施設に通うお年寄りたちは『同年代だから話が合いそう』と期待する。竹島さんは新たな生きがいを見つけたようだ」（2016・4・16朝日新聞「記者有論」佐藤 陽）

ただただ「凄い！」としか言いようがありませんが、刺激になります。

厳しい季節になってきました。会員の皆様のご健康をお祈りします。（編集 金城 清）